

平成 30 年度社会教育施設評価書（目標設定・実施結果）

施設名 生命の星・地球博物館

（評価基準） （達成度）	達成（目標値≧100%）	○
	ほぼ達成（目標値≧80%）	△
	未達（目標値<80%）	×

○全館共通項目

		取組の内容		自己点検		第三者評価
		1年間の目標値	実現方策	達成値	達成度	課題・対応の方向
利用状況	満利用度者	90%	アンケートを実施し、来館者の意見を聞き取り、改善に努める。	99.1%	○	来館者のニーズ把握し、さらに魅力ある施設づくりに努める。
	入館者	313,069人	対象を厳選した効果的な広報を実施する。	313,533人	○	広報効果の測定結果に基づきより効果的な広報により、さらに利用促進をはかる。
	への教育・普及事業	16,577人	講演会や視察会を積極的に開催する。	16,513人	△	講座開催時季や参加者の世代構成などを考慮した、天候に左右されにくい講座の設定とあわせて、魅力ある行事づくりをさらに進める。
	インタースネット	418,055人 (人=件)	ウェブサイトの更新頻度を高める。オリジナルな内容の記事をさらに増やす。	429,318人 (人=件)	○	利用者視点に立った情報、オリジナルな内容の記事をさらに増やすことにより、ウェブサイトの魅力をさらに増やすよう引き続き努力する。
資料・収蔵品	活用	館外貸出 831点 特別利用 50,488点 【※1】	外部研究者との連携をさらに密にすることによって、資料の特別利用を活性化させる。	館外貸出 3,407点 特別利用 14,779点	○ ×	外部研究者との連携をさらに密にすると同時に、資料の更なる蓄積、信頼のおける資料とそれに関連する情報発信に努め、資料活用をさらに活性化させる。
	維持管理	乗損無し 【※2】	IPMの考えに基づき、虫害等による資料の破損や劣化を未然に防ぐ。あわせて、紫外線や振動等による劣化を防ぐ。	乗損無し	○	引き続き IPM の考えに基づき、虫害等による資料の破損や劣化を未然に防ぐ。あわせて、紫外線や振動等による劣化を防ぐ。
調査研究	研究成果の公開等	学術著作 79点 普及著作 71点	外部研究者との連携をさらに密にすることによって、研究の進展をはかる。外部資金の獲得にさらに積極的に取り組み、調査研究の充実をはかる。	学術著作 92点 普及著作 76点	○ ○	引き続き外部研究者との連携をさらに密にすることによって、研究の進展をはかる。外部資金の獲得にさらに積極的に取り組み、調査研究の充実をはかる。

情報発信	の事業情報	302件	ウェブサイトの活発な更新につとめる。	405件	○	利用者視点に立った情報、オリジナルな内容の記事をさらに増やすことで内容の更新に努める。
施設運営等	事業等収入及び	観覧料 54,421千円 事業収入 3,274千円 【※3】	来館者増に繋がる各種の取り組みを積極的に実施する。	観覧料 48,723千円 事業収入 2,284千円	△ ×	魅力あるテーマによる特別展・企画展の開催など、来館者増に繋がる各種の取組みを積極的に実施する。
	施設点検	点検を実施する。	防火・防災について、来館者視点での点検を実施する。	点検を実施した。	○	防火・防災について、来館者視点での点検を引き続き実施する。
	他館の研鑽及び	【※4】				

注) 各論は各館独自の取組みを中心に評価項目や指標を設定する。

- 【※1】 特別利用に関しては、全件照会、ビックデータ解析へのデータ利用などがあるため、利用点数は年度ごとにみても大きく変化する。そのため、過去の実績に基づいて目標値を設定したり、その 80%を達成基準としたりすること自体にあまり意味が無い。一方、館外貸出については比較的數字が安定して推移しているため、指標として用いることができる。
- 【※2】 自然科学研究のために必要な、解剖、切片作成、晒出などの資料の改変は、乗損とはみなさない。
- 【※3】 観覧料＝常設展観覧料 49,641＋特別展観覧料 4,780；事業収入＝レストランほか立替 1,256＋図録等販売 1,994＋ライブラリー複写費収入 24
- 【※4】 館内で検討したが、項目に関する情報が不足しているため、現状では目標の設定は困難。